



美空ひばりさんの素顔を知る

小川平吉さん

「ひばりちゃんのお母さんに背負われてトーカーを見に行った記憶があります」

小川平吉さん（南千住5丁目在住）は、美空ひばりさんのお母さん喜美枝さんと従妹同士です。小川さんは、「キミ姉ちゃん」と呼んでいました。

「妹のようでした」

小川さんは（昭和2年生まれ）ひばりさん（昭和12年生まれ）でひばりさんのお母さんの実家が南千住3丁目にあり、当時、小川さんは南千住2丁目に住んでおりました。里帰りの時には、小川さんはお母さんと一緒に喜美枝さんの実家によく遊びに行っていました。

「お母さんの力が80%だったでしょう」

「ブギの女王」笠置シズ子に彼女の歌を歌わせてくれと頼みに行っていたんは断られました。お母さんの喜美枝さんの粘り強い交渉で了解を得て、日劇でひばりさんが歌い大成功を収めました。当時、日劇の周りを3周する程、人が詰め掛けたそうです。また、映画でも人気を得て、ひばりさんは特に男役が好きでした。

「音楽担当者が喜ぶ」

ひばりさんの歌入れ（録音）の時は、一回でOKが出るために音楽担当者達は早く帰れると喜んだそうです。

「おでんを作ったから、食べに来ない？」

ひばりさんから夜突然に電話がかかって来て、息子さんと二人で目黒の自宅に伺うと、パジャマ姿に素顔で迎えてくれたそうです。小川さんがひばりさんと会ったのは、この時が最後でした。

電話を貰って名古屋や横浜、目黒の自宅に何度も足を運びました。お酒のつまみも自分で作ってくれました。子供時代から芸能界に入っていたので、小川さんから一般社会の話聞くのが楽しみでした。ひばりさんは、お酒を飲みながら朗らかにお母さんと抱き合っただけでいきました。お酒は強くナポレオンやウイスキーをストレートで飲まれてました。

「気があつたんでしょね」

楽屋には大勢の人が出入りしましたが、皆が正座して仕事の話だけでした。小川さんと話をするのがリラックスできた時間だったのではないのでしょうか。雪村いづみさんや、江利チエミさんは三人娘と言われていましたが、本当の友達として仲が良かったそうです。

「おせんべいをお土産に持っていました」

名古屋の御園座には、ひばりさんが公

演を終えてすぐ休めるように屋上に休める場所が用意されていました。ひばりさんはおせんべいが好きだったので三ノ輪のさくらせんべいをお土産に持っていくとたいそう喜んだそうです。

「平ちゃんだけよ」

帰り際に玄関で小川さんのほほにひばりさんが軽くキスをしたのを見て、お母さんの喜美枝さんに笑いながら言われたそうです。

「霊柩車が進まなかった」

小川さんから見るとひばりさんは気遣いのある人間的にできた人でした。葬儀の時、霊柩車の前にパトカー2台、ファンが泣きながら霊柩車に取り巻いており、前になかなか進めませんでした。ファンの気持ち嬉しくて涙がとまらなかつたそうです。

ひばりさんが亡くなってから23年。ひばりさんのことを知る親族はわずかになりました。

小川さんは、ひばりさんが歌が上手いのは当たり前だと思っていました。亡くなってからしみじみと上手いと感じたそうです。

ひばりさんとの交流の黒電話は、今でも大切に保存してられる小川さん。新しい音楽に常に興味を持たれて、小粋でダンディ。ひばりさんの貴重な語り部です。